

Challenging

OTSUMA Ranzan



大妻嵐山
ここでなら
できそう。

Otsuma Ranzan Junior and Senior High School

Global Eco-Science School

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 558 0493-62-2281 大妻嵐山中学校高等学校 2021.3.1

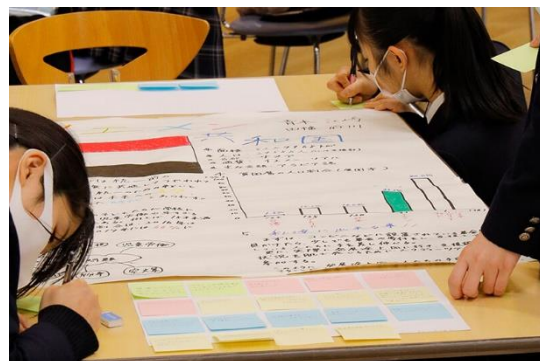
【学びを止めるな! 嵐山の探究】 …「今さら聞けない! 探究学習ってなに?」…

皆さんは知っていますか? 探究学習は、自ら問いを立てて、それに対して答えていく学習です。教科における、教師が立てた問いを生徒たちが正解を探すのではなく、自分自身で問いを立てて、その答えを出したいという「探究心」を大切に、学習を進めていく方法です。そのため、「生徒の主体性」をいかに引き出せるかが重要なキーワードになっています。そして、生徒が探究するとは、自分なりに問いを立て、情報を集めて分析して、まとめ発表する一連の流れを行うことです。

それでは、なぜ、いま探究学習なのでしょう? …未知の課題に対応するには、指示待ちではなく、自分で考える人が大切なのです。例えば、今回の新型コロナウイルスでも、様々な現場で初めての課題に向き合うことになりました。その中で大切なのは、答えがないなりに、自分で考え、自分で解決を目指す人が大切です。まさに新型コロナウイルスのなかで、誰も答えがない中でも、一人一人考えて判断することが求められました。

これからの時代は、終身雇用が崩壊したり、AI が台頭したり、デジタル化やグローバル化が進展したりと、様々な変化を迎えます。変化することで、これまで「正解」とされていたものが変わる可能性さえあります。その中で、自分なりに考えて、自分なりに問題を見出して、自分なりの答えを見出すことが大切だと考えられています。

こうした背景のもと、「高2生が「探究活動」の授業実践を行いました。10グループに分かれ、各国の社会問題をテーマにポスターを制作。他のグループのポスターを見ながら、気付いたことや質問、疑問など、それぞれが感じたことを付箋に書き込み、個々の考えや意見を共有しました。



●担当教員 (高2・林) より

高2 大妻グローバルコースでは、「国際理解」を探究学習のテーマとして、教科の枠組みにとらわれず、国際的な社会問題について理解を深めています。

また、ポスター発表やレポート作成等を通して、論理的な思考力や人の心に訴えかける表現力、一人では足りない力を補う協働性を育てています。このような探究学習によって、今後の世界を主体的に生きる女性に育てたいと願っています。

それでは、探究学習を通して生徒はどう変わるのか

大きく3つの変化があると言われています。①学力が上がる②やる気が高まる③進路に活きる
さて、皆さんの効果いかがでしたか?

【日本の伝統文化「茶道」を学ぶ】 …嵐山生の「お・も・て・な・し」…

中学2年で茶道体験を実施しました。本年度は、茶室に一同に会しての指導ではなく、教室でDVDを鑑賞した後、遠隔で茶道部顧問の手本を見ながら、お菓子とお茶をいただきました。



「やってみたくて思っていたから嬉しかった」「抹茶ってもっと苦いと思ってたけど、お菓子の後だからおいしかった」「またやってみたくて」など、ペットボトルの抹茶と使い捨てのカップでのお茶は、少々味気ない印象もありましたが、美味しいお菓子をいただけて、生徒は嬉しそうでした。

茶道は「もてなし」の美学ともいわれます。お客様をお招きするホスト役の「亭主」は心のこもったおもてなしのために、茶室の中に、掛物や水指・茶碗・釜などを用意して、おもてなしの準備をします。これらはすべて日本の風土が育んできた文化的な結晶といえるもので、だから茶道とは「日本的な美の世界」だということができるのです。

しかしながら、最近は人が人を大切にする「和の心」がなくなってきているようにも感じられます。他人のこころを傷つけ、他の人を踏み台にして自分だけがのしあがっていけばよいという人々が世の中に増えているのかもしれない。こうした時代に人を敬い、和みの世界と物事に動じない心を生み出していくのが茶道の心でもあり、大妻コタカ先生の言う「心美人」なのかもしれません。

嵐山生の皆さんにも、茶道を通じて、こうした世界に誇ることのできる精神文化を体現してほしいものです。そして、「日本一の心美人」を目指して、いつも明るい、正しい、そしてどんな人からも親しまれる円満な魅力ある人格を創り上げるために、日々努力を続けてほしいと思います。



【妊産婦などの災害時避難施設使用で嵐山町と協定】

協定書を手にする佐久間孝光町長
(右)と大妻嵐山中学校・高等学校の井上正美校長、嵐山町役場



2月24日(水)の埼玉新聞に、嵐山町と本校(大妻学院)が締結した「避難所施設使用に関する協定」の内容が紹介されました。

この協定は、本校の施設の一部を災害時に妊産婦や乳幼児用の避難所として開設するもので、2月19日に嵐山町役場において調停式が行われ、佐久間孝光町長と井上正美校長が署名を交わしました。

大妻嵐山中学校・高等学校では、万が一のときに、生徒や教職員はもちろん、地元の方たちにとっても本校が安心・安全の場所として機能

できるように、様々な取り組みや準備を進めています。

【おめでとう！『全日本学生美術展』入選】～集まれ!未来のアーティスト～

『全日本学生美術展』で、本校の加藤寿々奈(高2)さんが「推奨」、本郷紗羽(高1)さんが「特選」、高1の金子純女さんと金岡きさらさんが「佳作」として入選いたしました。おめでとうございます。これを機に、嵐山生、未来のアーティストたちのさらなるステップアップが楽しみです。

誰もが幼少期に経験する「おえかきの楽しさ」を、美術作品として「描く楽しさ」へとより深く実感できる機会となることを願っています。



「悶々」加藤寿々奈(高2)



「living color 7.4」本郷紗羽(高1)



「永劫」金子純女(高1)



「Bi」高1 金岡きさら